

コラム15:ラジオ体操

夏の朝、6時半に近くなると、カードを首から下げた子供たちが、私のハウスの前を歩いて行きます。私は仕事をする手を止め、子供たちの後を追います。目的は、近くの集会所の広場でやっているラジオ体操をやること。もちろん私が参加しなくてはいけない理由などないのですが、昨年からは出ていますね。そして、このことは私のちょっとした「夏の楽しみ」になっているのです。



定年退職した頃から、TV体操は毎日やってきているのですが、こちらは、レオタード姿のお姉さんたちの「見事な太もも」を見るといって少々「不純な動機」もあって、けっこう続いていますね。しかし、子供たちとやる体操は格別です。30人程度の小さな集まりですが、10分間のラジオ体操を終えると、一人で家の中でやるのとは違った「さわやかさ」が心に残るんですよ。

体操に参加して、まわりの子供たちを見ていると、いろいろと感ずることがあります。いい加減にやる子、遠くで離れてやっている子、なかには、終わってカードに判を押してもらう時になって、建物の裏から出てくる子(さぼり!)もいます。父兄が交代でラジカセを持参して、当番制でやっているようで、毎日来る人が変わりますから、責任者というのがいないわけです。当番の父兄も、子供たちの前に出て模範体操をする人、中に入って子供に合わせてやっている人、後ろで立っているだけの人、様々です。これでは、子供たちもサボるわけです。



よくよく見ると、いいかげんにやっている子というのは、ほとんど男の子なんですね。これは、私の子供(男の子2人)が小学生であった20年前と変わりませんね。祭りの神輿を、子供たちと大人で担ぐのですが、女の子はちゃんと担いでいるのに、男の方は、うちを含めてダメでした。中にはぶら下がっている者もいる始末です。その時、思いましたよ。「これからの日本を背負うのは女じゃ」と。現在行われているロンドン・オリンピックでも、日本の活躍しているのは、レスリング、柔道、サッカー、バレーボールなど女性群ばかり。「なでしこジャパン」の逞しき女たちを見よ！あれこそ今の日本の女性の象徴ですよ。

私が、ラジオ体操に勝手に入り込んだ最初の頃は、作業ズボンにヘッドタオルの「へんなオッサン」の登場に、子供たちは、いぶかしそうに(怖そうに?)していました。そのうち朝出会々と、何人かの子供たちから「おはようございます」と挨拶をしてくれるようになりましたね。これも女の子ばかりですね。



それにしても、今のラジオ体操は、夏休みが始まって、盆前までの3週間のみ、それも土日は休みですから、短いですよ。おそらく当番で出る父兄の方からの要望でしょうね。ですから、今年のラジオ体操は、明日が最終日なのです。私にとって少し寂しいことです。後は一人ぼっちのTV体操に戻って、続けていきますよ。

「夏休みーラジオ体操ー林間学校・・・こういう少年時代が、わしにもあったんよのう。昔のことを考えると、ちいと寂しい気がするわい」

(12・8・9)